

医療放射線被ばくについて

《 医療放射線 被ばくとは？ 》

病気の発見や診断、治療、評価を目的に、レントゲン撮影・骨密度測定・CT検査・X線TV透視検査…などを行います。これらは放射線を用いる検査となるため、僅かですが放射線被ばくを受けることになります。

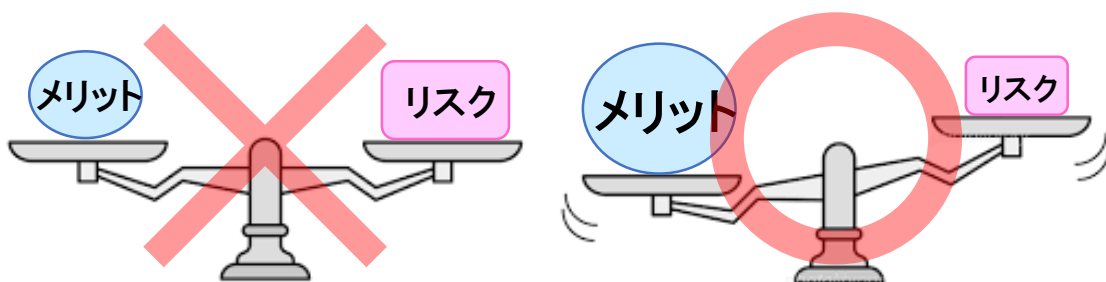
医療現場で受ける被ばくのことを“医療放射線被ばく”といいます。

《 検査の正当性 》

放射線検査は、検査によって得られる情報が、被ばくすることによって被るリスクより十分に大きいと判断される場合のみ認められています。

放射線被ばくのことを心配で、検査を受けなかったために、病気や怪我の発見が遅れたり、治療のタイミングを逃すことは避けなければなりません。

放射線被ばくのことを心配な時は、担当医師と相談し、納得したうえで検査を受けてください。

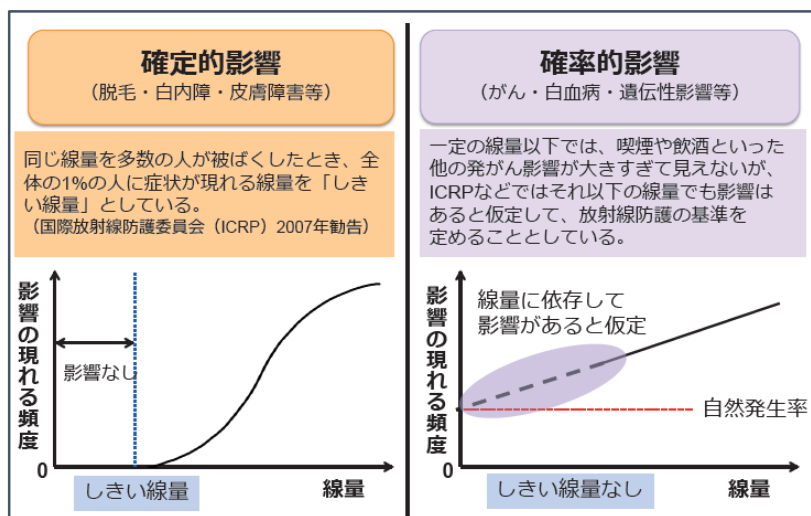


《 放射線がからだに及ぼす影響 》

放射線の影響には、確定的影響と確率的影響があります。確定的影響には、これ以上放射線被ばくを受けると影響が稀に生じる可能性が示唆される“しきい値（線量）”が存在します。放射線検査では、このしきい線量を超えるような放射線を使用することは一切ありません。

一方、確率的影響は、主に発がんについて示されたもので、100 mSv（ミリシーベルト）以下の低線量域での影響は非常に小さく、被ばく線量と発がんとの関係は確認されていません。

放射線検査で使用される放射線量は、多くて20mSv程度であり、ICRP（国際放射線防護委員会）でも、100mSv以下の被ばく線量では放射線の影響を考慮する必要はないと勧告も出されていますので、安心して検査を受けていただいて問題ありません。



（環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」）

《 当院での被ばく低減の取り組み 》

当院では、法令や放射線防護に関わる専門学会が作成した“診断参考レベル”といわれる患者被ばくの適正化に用いられる指標を用い、使用する放射線の量の最適化を図っています。また、専門の知識を持った医師・診療放射線技師が中心となり、定期的な放射線量の見直し、検討を行っています。

その他にも、様々な被ばく低減技術を利用し放射線量の低減に努めています。

※ 放射線検査、医療放射線被ばくに関する疑問・ご質問は

医師・診療放射線技師(12番レントゲン受付)までお問い合わせください。